

ピロリ菌（ヘリコバクター・ピロリ）って何



ピロリ菌～なんだか不思議な名前ですね。テレビや新聞などで目にした方もいるでしょう。また人間ドックや健康診断などで耳にしたことがあるかもしれませんね。ピロリ菌は人の胃に住んでいる細菌で、慢性胃炎や胃潰瘍・十二指腸潰瘍などを引き起こすと考えられています。若年者では感染している人はわずかですが、50歳以上ではおよそ50～80%以上の人が感染しているのではないかと報告されており、日本人の約半数は感染しているのではないかととも言われています。

胃潰瘍や十二指腸潰瘍には、このピロリ菌が関係しているものが多いことが分かっています。潰瘍があり検査でピロリ菌の感染が確認された場合は、除菌療法を行うことによって再発の危険を減らすことができます。胃潰瘍・十二指腸潰瘍を生じたことがある方は担当医と一度相談してみるといいでしょう。除菌療法は胃酸分泌を抑える薬と2種類の抗生剤（抗菌剤）を1週間内服することで完了します。除菌の成功率は約80%で、失敗した場合には薬を変更してもう一度除菌療法を試みることができます。治療中の合併症として、下痢、味覚障害、肝機能障害などを生じることがあり注意が必要です。また抗生剤にアレルギーのある方は除菌療法を行うことができません。



ピロリ菌に感染している人の多くは萎縮性胃炎という慢性の胃炎を生じています。経過観察されることがほとんどですが、萎縮性胃炎が進行している場合は胃癌を生じる危険が高くなるため注意が必要です。萎縮性胃炎や慢性胃炎を指摘されている方は、かかりつけ医と相談し胃カメラによる定期的な経過観察を行っていただくとよいでしょう。最近、ピロリ菌の除菌により萎縮性胃炎の進行を抑え、胃癌発生の危険性を減らすことができるのではないかとわれ始めています。しかし、現在のところ潰瘍のない方に対してのピロリ菌の除菌療法は保険診療の適応になっておりません。潰瘍はないけれどもピロリ菌がいるかどうか検査をしたい、ピロリ菌の除菌療法を行いたいという場合には、費用は全額自費診療となります。かかりつけ医と相談していただくとよいでしょう。

ピロリ菌の除菌を行うと胃の痛みやもたれ感がとれ、調子が良くなったという声をよくお聞きします。しかし、逆に胸やけがひどくなったと訴える方もいらっしゃいます。ピロリ菌は胃の中で自分が生活しやすいように胃酸を弱くする活動をしています。除菌を行うと胃酸が本来の状態に戻ってしまい、強い胃酸が食道にこみ上げて逆流性食道炎を生じるためです。胸やけ症状が強くなった場合は、満腹になるまで食べ過ぎない、食後すぐに横にならない、横になる時は右側を下にするなど生活習慣の改善で効果がある場合があります。それでも症状がとれないときは、胃酸を抑える薬を使い逆流性食道炎の治療を行うことがあります。担当医に相談いただくとよいでしょう。

